

第24回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおり開催しました。

「最上小国川流水型ダムの状況」「前回の協議会における指導事項と対応」「令和7年度環境影響調査の報告」「ダム供用後モニタリング結果の総括」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 令和8年3月3日（火） 14:00～15:45

2 場 所 最上総合支庁

3 出席者 10名（3名欠席）

原慶明委員長、梅田信委員（Web出席）、板本健児委員、齊藤光雄委員（伊藤欽一委員代理）、伊藤一雄委員、笠原啓一委員、星川基委員、柴田樹紀委員、奈良寿仁委員、伊藤秀樹委員

4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・ 原慶明委員長 【底生動物調査について】
 - ・ 底生動物は水質の指標になるので、今後も調査を継続してほしい。
- ・ 梅田信委員 【濁度計測について】
 - ・ 流水型ダムで、出水の後半で1回水が貯まって水位が下がる時に、土砂が巻き上げられて流送して濁度が上がるという現象が言われている。令和7年12月8日～9日の出水で見られるような二度の濁度上昇もその現象の一つである可能性がある。短時間の濁度なので環境的に影響があるとは考えにくいですが、昨年度も同じようなデータが出ていたこともあり、このようなダムの特徴的な変動として、来年度はこの辺について細かく過去のデータも含めて確認してほしい。
- ・ 板本健児委員 【魚介類調査・底生動物調査について】
 - ・ ダムによる影響で、特に問題があるようなことは無いと思われる。
 - ・ 工事の際、最後に大きい石を散らすようにしているのは非常に良いことである。
 - ・ 10年後や20年後の河川の変化がわかるように河川の全景の写真を撮影し、データを蓄積してほしい。
- ・ 齊藤光雄委員 【濁度測定について】
 - ・ ダム上流の森林管理署による、伐採木運搬のための作業道からの土砂流出による濁水の影響の有無を確認してほしい。
- ・ 事務局 【今後の環境調査について】
 - ・ 環境調査については、引続きデータの蓄積が必要と考えており、令和8年度以降も調査を継続する。

【開催概況】

